



1 ヒヤリング

実行委員会のスタッフが各団体へ取り組みに関するヒヤリングにうかがいます。

2 ポスター製作

ヒヤリングの内容をもとに、実行委員会が各団体のPRポスターを作成します。

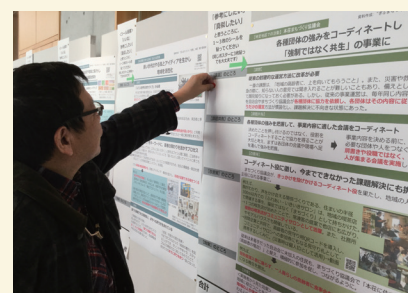
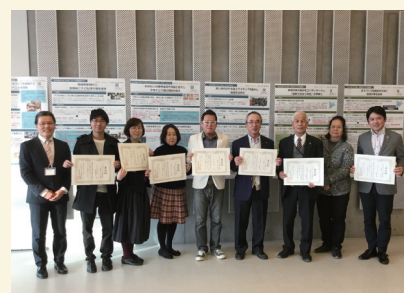


3 事例発表・交流会

各団体の事例を実行委員会が紹介し、参加団体と一般参加者が取り組み内容について自由に議論できる交流会を行います。

4 公開選考・授賞式

参加者が真似したい団体を選考するシール投票を行い、大賞を決定します。



参加いただいた団体の取り組みは、多くの方に広く真似していただけるよう、ホームページやSNS、リーフレットなどに掲載するほか、各種マスコミにおける宣伝等で情報発信していきます。

問合せ

ぎふまちづくり「改善」大賞実行委員会

TEL.058-293-2445(担当/岐阜大学教授 高木朗義)

E-mail/ceip-machi@gifu-u.ac.jp

ぎふまちづくり 「改善」大賞



ぎふまちづくり「改善」大賞は、
岐阜で真似したいまちづくりの
仕組みや工夫を勝手に表彰するものです。
表彰された事例は、誰でも真似して大丈夫。
いい事例は積極的に真似して、
自分たちのまちを改善していきましょう。

地縁 コミュニティ 部門

まちづくり「改善」大賞 芥見東まちづくり協議会



有償運営を目指して
地元企業や施設を活
用した点が、協力者の
獲得や事業の継続に
つながっていると感
じました！

真似したいポイント

継続を目指して “有償”事業に挑戦！

芥見東まちづくり協議会は、地域で行ってきた事業の無料実施は継続が難しいと考え、市民がビジネスによる地域課題の解決を目指す“コミュニティビジネス”への挑戦を決意。すでに実施している地域を視察し、住民の中で意識を高めました。

重点を置いたのは、分かりやすいイベントで地域を活性化することと、誰でも集まれる居場所を作ること。そこで、毎月第2土曜日のワンコインコンサートや、年2回の健康落語会など500円程度で参加できるイベントを開催したり、空き家を生かして囲碁や将棋、子ども未来塾等を行う「みどりっこハウス」を設けるなど、多彩な企画を実施しました。取り組みを続けるに従って、住民や企業の協力者も徐々に増えています。



まちづくり「改善」賞 合渡まちづくり協議会

地域団体の協力強化で 行事を継続

合渡地域の伝統的行事「いこまい中山道河渡宿祭り」は、参加者や規模が拡大する一方で担い手が高齢化し、継続の岐路にありました。そこで、まちづくり協議会が中心となって地域団体の意見交換を行い、協力を強化。その結果、住民が楽しめる小規模行事に切り替え、参加する地域団体や企業を4部会に分けて運営することになりました。さらに、若手の担い手として子育て世代で構成された「おやじの会」に参加してもらい、運営ノウハウを継承。活動を広報誌で発信したことで、まちづくり協議会の認知度も高くなり、住民の協力や賛同も得やすくなっています。



真似したいポイント

運営組織に「子育て世代の父親」に入ってもらい、運営ノウハウを継承している点に注目です！

まちづくり「改善」賞 本荘まちづくり協議会

地元団体の強みを 生かして課題を解決

本荘まちづくり協議会は、地域の事業運営には各種団体の役割を生かすことが大切と考え、各団体の会議や現場に足を運んで強みを把握。協議会がコーディネート役となって、地元の喫茶店で住民が集まる「ふれあい・いきいきサロン」を開催しています。サロンの参加券には、民間企業と共同で高齢者の見守り用QRコードを付け、見守り札として携帯する仕組みも導入。また自然災害に見舞われた時を想定し、自治会に加入していない人も参加できる食事会など、顔見知りになる機会を創出し、高齢化する住民が安心して暮らせる地域を目指しています。



真似したいポイント

事業の内容に応じて適した団体や人物に声をかけ、コーディネートに専念している点が重要だと思います！

表彰される 2018年度は 部門は2つ！ 7団体が受賞。

ぎふまちづくり「改善」大賞には、地域に根付いてまちづくり活動を行う団体を表彰する「地縁型コミュニティ部門」と、得意な分野や専門的な視点でまちづくりを支える「目的型コミュニティ部門」があり、それぞれ公開選考で大賞が決められます。

目的 コミュニティ 部門

まちづくり「改善」大賞 ひとひとの会



若者の言葉が企画
のヒントになるほど、
若者が関わりやすい
場や組織を実現してい
る点は、ぜひ真似して
ほしいです！

真似したいポイント

若い世代の発想で 地域を活性化！

“ひとひとの会”は、今の柳ヶ瀬に関するアンケート調査を実施し、「駐車場料金が高い」という課題解決に向け、学生たちと解決策を模索。その結果、「駐車場料金を払ってでも、この人に会いたい」というファン心理に着目し、ご当地キャラ「やなな」の導入や、岐阜市内の黄金スポットをつないだ「黄金プロジェクト」、地元の事業者や商店を巻き込んだ「1万円販売促進コンテスト」などを次々と企画しました。事業は、すべて若者のアイデアを積極的に採用し、高校生がTV局へ動画を投稿したり、学生が製作した「Vチューバー」にストリートビューで街を案内させるなど、若者が活躍できるプロセスを導入。「誰でもまちづくりに挑戦できる」という気運を高めています。



まちづくり「改善」賞 NPO法人グッドライフ・サポートセンター

時代に即した子育てと 介護の課題に着手

マーサ21内の高齢者が集う場「ほっこり広場」や、0～2歳児とママの子育てスペース「みなたん」、中学生が乳幼児とふれ合う「乳幼児ふれあい学習」など、子育てや介護のニーズに応えるさまざまな事業を展開。行政への政策提言なども行い、地域・企業・行政の協力体制を確立しています。一番の強みは、自分のできること・できる時間を生かして参加する、約800人の提供会員。行政の目が届かない課題をサポートしながら、関わる人のやりがいを生むという、理想的なサイクルが実現しています。



真似したいポイント

事業の内容に応じて適した団体や人物に声をかけ、コーディネートに専念している点が重要だと思います！

まちづくり「改善」賞 ヒトノネ放課後クラブ

地域資源を生かし、 子どもの遊び場を提供

働く女性が増える中、子どもの成長にプラスとなる放課後の過ごし方が必要と考え、アクティブラーニング型の“学びの場”を提供。共感する仲間とともに、インターネットを通じたクラウドファンディングで資金を募りました。アクティブラーニングでは、地域の高齢者の特技を活かした講座や、地元商店の店主によるキャリア教育など、市民講師に活躍してもらい、地域が管理する自治公民館を活用するなど、地域の支援を得ることで、事業コストを軽減し、住民の理解を得ることができました。



真似したいポイント

ネットを通じて課題共有と資金調達を行い、地域資源である自治公民館で活動する体制を築いた点が参考になります！

まちづくり「改善」賞 ぎふマーブルタウン実行委員会

他県の先進的な事例を 地域で実践

岐阜大学の学生を中心に、他県で実施されていた、子どもが仮想都市でまちづくりを体験するというキャリア教育イベントの地元開催を模索。大学生や大学教授、地域の活動団体などの共感を得て、ドリームシアターで「ぎふマーブルタウン」を実現しました。開催時には、毎回数百人の子どもが参加しています。回を追うごとに、子どもたちの主体性や協調性、創造性が高まり、口コミで参加者が増加。保護者向けのセミナーも増設し、親子共に参加できるイベントとして盛り上がりを見せています。



真似したいポイント

真似したい取り組みのノウハウをスタッフが吸収して実現し、地元ならではの改善を重ねている点がいいですね！